

■ 雑誌が日本人移民100年特集

書店の雑誌コーナーを飾る「招き猫」や「浮世絵」の表紙。ブライジルでは日本からの移民 100周年に当たる今年、雑誌による日本特集が相次いでいる。総合誌が移民の歴史を取り上げるだけでなく、様々な分野の専門誌がそれぞれの分野で深く掘り下げた特集を組んでいる。

大手雑誌社のアブリルは50強ある発刊誌のうち14誌で日本特集を組む予定だ。まずブライジルを代表する総合週刊

■ 侍・文学…切り口多様

誌「ヴェージャ」で移民特集を組み、日本特集ブームの先陣を切った。世界の戦争を研究する「グランドデス・グランド」は4月に「侍」を特集。源平合戦、忠臣蔵、武士道が第二次世界大戦に与えた影響などを多角的に伝えた。

隔月刊の言語・文学関係専門誌「リソグア・ポルトゲーザ」は12ページの日本特集を掲載。日系移民の「コロニア語」には「便所」のように日本ではあまり使われなくなった言葉が残って



ブライジル 発

いるというエピソードや、日本文学を紹介。専門誌らしく「チヨッキ」「パ

ソ」 「シヤボン」のように日本語化したポルトガル語の一文も掲載した。

こうした特集で目立つのは、単に日本や移民を紹介・記念するだけでなく、日本移民がブライジル文化にもたらした影響を意識していること。別冊で日本特集を3冊発刊していること。別冊でストリア・ピバ」の編集者、イゴ・フーセル氏は「日系人も自覚はしていないが、彼らは豊かな文化をブライジルにもたらした。そんなメッセージを伝えたい」と話している。

(サンパペロ＝檀上誠)